

岡山県総合文化センターニュース

県内図書館めぐり Part 作東町立図書館



県北東部の緑豊かな美しい町、作東町。そのほぼ中心に作東町立図書館が誕生したのは、平成五年十月三十日のことです。

愛らしいキューピットたちに出迎えられる坂道が上がって行くと、おとき話に出てくるような住宅群や噴水、庭園などゆったりとした空間が広がります。ここ「パレンティンパーク作東」の中心に位置する「作東町文化芸術センター」は、美術館や物産館も併設した複合施設で、その一階が図書館になっています。

館内には図書のほか、AV（音響・映像）コーナーや児童コーナーがあり、ビデオ・CD・LDなどを視聴したり、紙芝居、絵本などを靴をぬいでくつろいで見ることが出来ます。

また、映画の上映会やおはなし会を定期的に行っているほか、夏休み中にはスタンプラリーで楽しみながら読書をして、子供からお年寄りまで気軽に図書館を利用できるよう工夫がなされています。

所在地 〒七〇九 四一三四

英田郡作東町江見九四五

電話 (〇八六八七)五 一一一

蔵書冊数 約二万七千冊

貸出冊数 約二万三千冊

(町民一人当たり約二、九冊)



感動 未来へ おかやま

電子ネットワーク時代の図書館の役割

インターネットの急速な普及により、出版社・雑誌社・新聞社等各種のメディアがそろって電子情報ネットワーク上に企業の戦略を展開しつつある今日、消費者（情報受益者）である我々は、インターネット上に、情報の「宝山」があるが如き錯覚に陥る危険性があることに気付きはじめている。

情報は、目的にそって収集整理されてはじめて役に立つものであり、溢れることき情報の氾濫は、往々にして、その中に踏み込んだ者に空しい徒労感と失望を与える。まして中・高校生の「調べ学習」の役に立つものであるとは考えにくい。小学生においてはなおさらのことである。「環境」を与えればその中から「活用法」を自ずと見出すものであるという説にもうなづけるころはあるが、あまりに迂遠なる方法と言わざるを得ない。

岡山県においては、「情報ハイウェイ」の基幹回線整備が進み、いよいよその「活用」を具体的に考える時を迎えた。今まさに、誰が（どこが）この整備されたイン

フラの有効活用に「責任」を負うかが問われていると言っても過言ではないと思う。

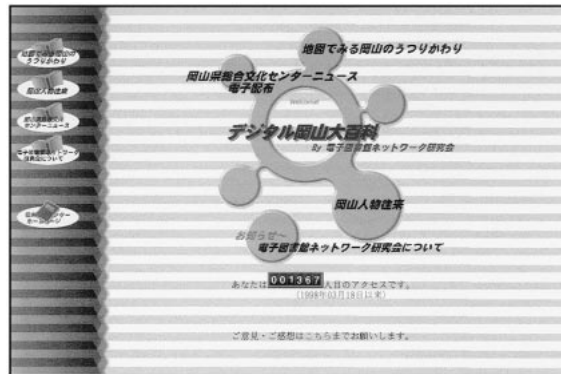
このような現実の中で、図書館の「機能」を考えてみると、従来図書館は、たくさんの「出版物」という情報源の中から「有益」と考えられるものを抽出収集し、利用し易いように分類整理して配架し、利用者の「有効活用」の便を図りながら、情報提供に努めてきた。

また、レファレンス機能を発揮し、利用者に情報活用のガイダンスも提供してきた。

このように、図書館が利用者に対して図書館資料としての文字情報を責任をもって提供してきた経緯から考えると、今日の状況の下で、「電子情報」をも同様に考え、収集・分類・整理し利用者の活用の便を図ることは至極当然の流れ、時代的要求と考えることができるのではないか。

現在、岡山県総合文化センターでは、『オンライン情報提供システム』を平成八年三月より稼働し、県内市町村立図書館十六館に對して、当センターの蔵書検索・

予約サービス及び新刊マークの開示を行っている。またこれにあわせて、岡山情報ハイウェイ構築実験の一環として「情報の電子化」にも取り組んでいる。



この実験で提供する「電子情報」は、当センターの郷土資料をもとにした

岡山の交通網、行政区画などの変遷を地図で示す「地図で見る岡山の移り変わり」

岡山に縁のある人物に関する情報「岡山人物往来」

これまで紙で配布してきたニュースを電子的配布
その他、図書館部門の利用情

報等載せたホームページ
これらの電子情報提供実験は、図書館・学校・公民館等、地域の文化的核になる施設が、ローカル・コミュニケーション作りに積極的に動き出すための一つの形を提案するものでありたいという考えのもとに出発している。

図書館は、地域の文化的ネットワークの核になる「資材」をすでに持っている貴重な「存在」であるという認識に立つべきではないか。

こう考えると、情報開示に関するセキュリティの問題や、個人情報に関する保護条例の見直し等も含めて、制度的・経済的問題はあっても、今こそ、考え、行動を起こす「時」ではないだろうか。

県のみならず、市町村の中には独自で図書館情報をインターネットで利用できるシステムを立ち上げる計画を進行されているところもあり、今まさに「図書館の電子ネットワーク元年」という感が強い。

このような時期、「単独図書館と利用者」という関係から、「図書館ネットワークと利用者」という関係への転換を図る必要性を感じる人は多いと思うが、まさに、私たちもそう考えている。

平成十年度第一回

「世界お話の旅」

中国編 開催

当文化センターでは子供

たちに外国の絵本や文化に親しんでもらおうと今年も「世界お話の旅」の講座を開催します。第一回目は、三千年の歴史と五十余りの民族をもつ広大な国 中国 をとりあげます。講師に日中の国際交流の場で活躍されているキク・ギョツカさんを迎え、民話の読み聞かせを中心に中国の言葉や文化にも触れます。歌や遊びのコーナーでは講師との交流も図ります。今回とりあげるのは、勇敢な少年シャオアルと仲間達のお話「宝船」や、日本でも有名な七夕のお話「ニューランとチーニューイ」など、原語を交えながら参加者に語りかけていきます。詳細は次のとおりです。

一日時 平成十年七月二十五日(土)

午後二時～三時三十分

二会場 岡山県総合文化センター

第一会議室(三階)

三講師 キク・ギョツカ氏

四対象 おもに小学生と保護者。

一般の方の参加も歓迎。

入場無料で、申し込み手続き不要。お問い合わせは国際資料係まで。

おかやま人物往来 ④

寂 庵



寂庵画像(部分) 宝島寺蔵

寂庵は江戸時代中期のころ、原点に立ち返って、仏教の正しいあり方を追及した悉曇学の学者である。

悉曇とは梵語(古代インドのサンスクリット語)のこと。釈迦の教えは弟子たちによって梵語の經典にまとめられ各地へ伝えられたが、わが国に入ったのは中国で翻訳された漢字による經典で、漢訳できない語は梵語のまま取り入れられたものであった。

寂庵は元禄十五年(一七〇二)に、備中足守藩士の子として生まれた。九歳の宝永七年(一七一〇)吉備津宮(現吉備津神社)の社僧普賢院(真言宗)の超染に弟子入りし、十一歳の時正式に出家して、はじめ法念のち寂庵と名乗った。

寂庵の悉曇との出会いは、寂庵が真言宗の僧として出家したことにある。真言宗で即身成仏のため唱える「真言」は梵語の呪文で、梵字で記されている。また、超染の師浄庵が平安

時代以来絶えていた悉曇の研究を再興させた学者であったことも、寂庵を悉曇の研究に向かわせる要因であったと考えられている。

寂庵は十九歳の時、窪屋郡沖村(現倉敷市沖)の円福寺の住職になった。二十六歳の時にはここの円福寺で初めて悉曇の講義を行なっている。三十四歳の時、地方における学問の限界を感じた寂庵は畿内地方へ遊学。三十五歳の元文元年(一七三六)当時悉曇の学僧として名高い京都五智山蓮華寺の曇寂に入門して本格的に悉曇を学び、五年にわたる曇寂のもとでの勉学の後、寛保元年(一七四一)備中連島の古刹宝島寺の住職となった。宝島寺は連島町矢柄にある真言宗の寺院(山号矢上山)で、寺伝によると、貞観元年(八五九)理源大師聖宝によって開かれたという。中世のころには広大な寺院を持ち、多数の塔頭を有したと考えられるが、天正のころ(十六世紀後期)、戦火で全山を焼失し、江戸時代には寺領十五石、阿弥陀院・真如院・慈眼院の三院および末寺十寺に縮小されていた。

寂庵は宝島寺の復興に努め、宝島寺中興の祖とされているが、この宝島寺住職時代に梵語について多くの著作を著しており、その数はおよそ百種におよぶといわれる。

その著作は梵語の文法や音韻が中心で、『梵漢助字合会』、『梵漢阿弥陀經大観』、『大悉曇章稽古録』、『悉曇字記大観』、『梵本弥陀経私記』などがあ

る。また、この時期、地元をはじめ堺・京都・高松・和歌山などへも出向いて精力的に悉曇の講義を行った。詩文にも優れ、多くの著作を残している。

明和四年(一七七七)寂庵は宝島寺を高弟の文敵に譲り、倉敷村の玉泉寺へ隠退、学問に専念し、四年後の明和八年(一七七七)ここの玉泉寺で示寂した。享年七十歳。

寂庵は悉曇の学僧であったが、また良寛、明月、慈雲とともに近世の「四大書僧」と呼ばれ、書の名手として知られた。今も寂庵の書の愛好者は多い。

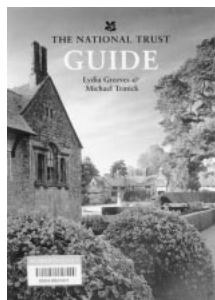
当館で閲覧できる関係図書もその書を集めた図録類が多い。『寂庵遺墨集』二種、『寂庵書譜』などがそれである。また寂庵の生涯を紹介した著作では、渡辺知水の『僧寂庵』がもっともまとまったもので、出生から普賢院、円福寺、宝島寺、玉泉寺時代と、時代を追って寂庵を紹介し、仏徒寂庵、書家寂庵のほか、著作・師弟交友・詩文など寂庵の全貌に触れている。

また『倉敷市史』第九卷第九十三章にも寂庵関係の資料が多数収録されて必見の資料といえる。

このほか、宝島寺内「寂庵顕彰会」が刊行した『寂庵和上著作集』第一集、第二集、「宝島寺古文書研究会」発行の『寂庵和上資料集』第一集がある。

外国語資料紹介

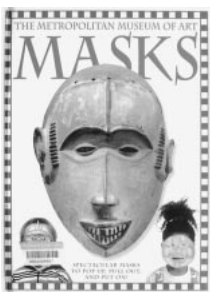
The National Trust Guide
(ed by Lydia Greaves / The National Trust / 1996)



貴重な自然や史跡などを管理保存しているこうとうというナショナルトラストの運動は、日本も含め世界中に広まってきた。この書は、その本家イギリスのナショナルトラストのプロパティ(資産)を写真とともに解説している。

美しい白亜の断崖、太古の遺跡、湖水地方の詩人の家、近代産業がうみだした鉄の橋など…。雄大な自然の営みと人類の文化を鑑賞していただきたい。

Masks (ed by The Metropolitan Museum of Art / DK Publishing / 1997)

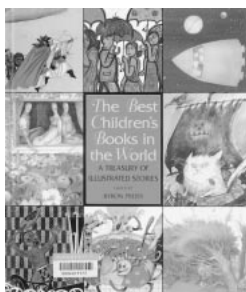


この書は、メトロポリタン美術館所蔵の世界の代表的な仮面や兜

(かぶと)を紹介している。

コロンビアの黄金の仮面、アフリカの部族の仮面、日本の天狗のお面などが迫力ある大型ポップアップで登場する。

The Best Children's Books in the World (ed by Byron Preiss / A Byron Preiss Book / 1997)



この書は、世界各国で現在高い評価を得ている絵本作家の作品を集めたものである。各々の絵本をページごとに再現し、原文とその英訳を付している。

親の言いなりは大嫌い! そんな子供たちに贈る「Bad Advice」(ロシア)。「長靴をはいた猫」には実はチャーリーという弟がいた。知恵と勇気を発揮してやがては幸福をつかまえる「The Cat on Pirates Island」(ノルウェー)。村人たちの間に「傘」と呼ばれる新しいものが広まった。バナナの葉っぱはもういらぬ。そのきつかけをつくったのはかわいい森の動物だった「The Umbrella Thief」(スリランカ)。このほかに十三の心温まる作品が収録されている。

当館の参考図書 94

日本語 手話辞典(日本手話研究所編 (財)全日本聾唖連盟出版局 一九九七)

手話に関する図書は多数出版されているが、見出し語総数八千三百二十語の本書は、それらの中でも最大のものであると言えるだろう。

内容についてみると、それぞれの言葉の意味・用法に対応する手話を、具体的な例を挙げてイラスト付きで説明している。また「あげる」などの多義語については多数の例文を掲載して、実際の表現に役立つように構成されている。

巻末に二種類の索引あり。
世界の味探究事典(岡田哲編 東京堂出版 一九九七)



現在私たちは、日本国内にいながらにして世界各国の料理を味わうことができる。中華料理・イタ

リア料理をはじめ各国の料理にはその国の生活や文化を反映した実に様々な食材及び調理法がある。

本書は、そうした世界の食べ物に関連事項から食材・料理法・料理・加工品など約千三百種類を取り上げ、世界の味について簡潔な知識が得られるように解説したものである。項目の解説の中にもふいにあらわれる著者のコメントが、この一冊を読んで楽しい事典になっている。

日本のうた第一集・第二集(野ばら社編集部編 野ばら社 一九八八)



本書は、第一集が明治・大正年間、第二集が昭和初・二十年までの間に作曲され流行した歌を、二冊合わせて五百曲程度、楽譜とともに収録したものである。

所々にそれぞれの曲が作られた背景なども書き添えられており、歌そのものについてだけではなくその歌が流行していた当時の社会情勢などについても理解できる一冊となっている。

随 想

二年前の春、幼な子達と三十年間生活を共にした保育園から公民館へと勤務がかわった。そして三年目の今春、四月二十五日に落成式を終えたばかりの、文化ゾーン、ハートピア勝北（文化センター・図書館・公民館）へ引っ越し、引き続き公民館・図書館行政を担当することになった。真新しい施設・広い敷地、このような環境で仕事が出来るといふ喜びよりも、期待に応えられないだろうかと思わずにいられない。

町の人と顔を合わせると、口々に大変じゃあな、大変じゃろつとの声にますます不安をつのらさざるを得ない心境になってしまつた。保育園勤務三十年の経験をもつ私も保育園以外の職場は全く初めての勤務である。

しかし、勤務場所はどこであれ三十年の年数を経た私は町の人達からのニーズに対してきちんと対応し応えていかなくてはいけない責任がある。とにかくやるしかない。緊張した勤務が始まつた。



「夢、公民館は子どもが主役！」 今石一恵

そんなある日、図書館（図書館は公民館の中に位置している。）に一組の親子がやってきた。顔を見るなり「園長先生、なんでここにおるん、保育園にきて。」と子どもも声、「先生！図書館に来ると先生に逢えるのでうれし。」とお母さんの声、かけられた一言で喜びとうれしさが倍増し、少しばかりやる気がわいてきた。そうだ、子どもだ！子どもが主体的に活動できる公民館、つまり子どもが主役になれる公民館を

目指して事業を展開していけないだろうか。保育園での経験を生かしながら子ども達と共に歩むことができるのではないだろうか。一組の親子との出会いがそんな思いを呼び起こさせてくれた。今、公民館が子ども達の学校外教育施設の役割を果たす拠点として、又、子どもの生涯学習の拠点としてクローズアップされている。この事は青少年問題が公民館運営の重要な柱となっていることを踏まえて、公民館の存在意義が

問いただされていることにつながっている。二年前の公民館行政を担当するようになってからたどった道を思い返すと、子ども主役の事業をどれ程取り組んできただろうか、反省の至りである。子ども一人ひとりがこれだけやれたという満足感、みんなが認められたという喜び、やればできるといふ自信、そして意欲、これらのことが体験や人間関係を通して大きく育まれたと確認できたとき目的とする事業の充実がはかられていることになる。

新しくオープンしたハートピア勝北のあちこちに子ども達の元気な声、子ども連れの親子の姿、学生のはしゃぐ声など活気あふれる光景が見られる日を思いうかべながら子ども達が大きく羽ばたくことを願ってやまない。子ども主役の事業を展開する中で、自分で考え体験し、子ども達の心の中に何が残り、そこから何が生まれる。子ども達に夢を託して！

（勝北町公民館長）

友の会だより

去る六月二十六日に開催された友の会理事会で、平成十年度の事業が次のとおり決まりました。多数のご参加をお願いいたします。

美術鑑賞旅行（十年九月中旬）

鳥取・島根方面

スケッチ旅行（十年十月中旬）

香川県（五色台）方面

文化財めぐり（十年十一月中旬）

牛窓・前島方面

友の会作品展（十一年二月下旬）

・会員の作品を公開展示

・展覧会招待

・日本伝統工芸展

・院展

文化センター主催事業招待

・現代作家の眼

《アートウエーブ岡山・彫刻選

抜》展（十年九月下旬）

《アートウエーブ岡山・洋画選

抜》展（十年十一月中旬）

文化センターニュースの発行

（催物・行事の案内）

文化センター各種展覧会の割引

優待

文化センター土曜劇場無料招待

平成10年

8月の催物案内

岡山県総合文化センター

ギャラリー

期 日	催 物	入 場 料	主 催 者	展 示 室
7 / 28 ~ 8 / 2	岡山美術研究会第80回展	無 料	岡 山 美 術 研 究 会	第1展示室
	第7回 墨成会書道展	無 料	墨 成 会	第2展示室
	32' 展	無 料	32' 展 実 行 委 員 会	第2展示室
8 / 4 ~ 8 / 9	第40回 東中国自由美術展 (巡回展)	無 料	自 由 美 術 岡 山 支 部	第1展示室
	第8回 画布(Canvas)展	無 料	画 布 (C a n v a s) の 会	第2展示室
	集 樹 展	無 料	集 樹	第2展示室
8 / 11 ~ 8 / 16	第29回 玉龍会展	無 料	玉 龍 会	第1展示室
	さわらび会第5回墨彩画展	無 料	さ わ ら び 会	第2展示室
8 / 18 ~ 8 / 23	第11回 国際架橋書展(国展)	無 料	国 際 架 橋 書 会 (書 団 國 展)	第1展示室

ギャラリーの開場時間は通常9時から17時です

ホール(固定席282席)

日(曜)	催 物	時 間	入 場 料	主 催 者
8 / 1(土)	音楽発表会(バイオリン)	13:00~16:00	無 料	兼 信 バ イ オ リ ン 教 室
8 / 2(日)	伊豆丸音楽教室発表会	12:00~16:00	無 料	伊 豆 丸 音 楽 教 室
8 / 7(金)	第20回「少年の主張」岡山県大会	13:00~16:30	無 料	(社)岡山県青少年育成県民会議
8 / 8(土)	ピアノ発表会	13:00~16:30	無 料	野 ば ら の 会
8 / 9(日)	ピアノ発表会	9:30~11:30	無 料	山 田 利 子 ピ ア ノ 教 室
8 / 9(日)	フレッシュコンサート	15:00~17:00	1,000円	岡 山 演 奏 家 協 会
8 / 16(日)	ピアノ発表会	10:00~12:00	無 料	前 田 音 楽 教 室
8 / 19(水)	第11回 岡山県高等学校 吟詠剣詩舞発表大会	10:00~16:00	無 料	岡山県高等学校芸術連盟 吟詠剣詩舞部会
8 / 22(土)	第293回 文化センター土曜劇場 劇団クレッシェンドシアター公演 :「郵便配達夫の恋」	18:30~20:30	前 800円 当 1,000円 会 員 無 料	岡 山 県 総 合 文 化 セ ン タ ー
8 / 23(日)		13:00~15:00		
8 / 27(木)	ピアノ発表会	9:30~11:30	無 料	さ く ら 会
8 / 29(土)	ピアノ発表会	9:30~17:00	無 料	石 井 ピ ア ノ 会
8 / 30(日)	歌謡音楽会	13:00~16:00	無 料	ダイナマイト大衆音楽会

会員...文化センター友の会及び文化振興会会員

催物案内と文化センターニュースはホームページでもご覧になれます。



六月三十日、特許庁の「知的所有権センター」の設置に伴う地方官庁の整理・統合を図る指針に基づき、産業技術資料室を閉室しました。
昭和三十七年六月に開室し、爾来三十六年間、特許行政及び工業所有権情報の啓蒙・普及活動を行ってきました。今後、この業務は、特許庁が指定した岡山県知的所有権センター(社)発明協会岡山県支部)において一手に行われることになりました。
これまで、当室をご利用いただきありがとうございました。

お悔やみ
去る六月二十一日に、元文化センター館長の大原利貞先生が、享年八十二才で御逝去されました。大原先生は、昭和四十六年四月から一年間、当館の運営に御尽力いただきましたが、その後、芳泉高校の校長、岡山県教育委員長を歴任され、岡山県の教育行政で幅広く御活躍されました。
また、平成九年六月から、当文化センター友の会の会長として、友の会の発展に御尽力いただきましたが、その業績は数え上げたら切りがないほどでしたが、惜別の情は尽きませんが、ここに謹んで哀悼の意を表し、心から御冥福をお祈りしたいと思います。